

第 2 回（仮称）リニア山梨県駅前エリアのまちづくり基本計画検討委員会

まちの機能の想定について

1. リニア駅前の利用者属性（前回の補足）
2. 上位・関連計画に示されるリニア駅前に望まれる機能
3. 民間事業者への非公開サウンディング調査の結果概要
4. まちの機能の想定について

令和 6 年 3 月 2 7 日（水）

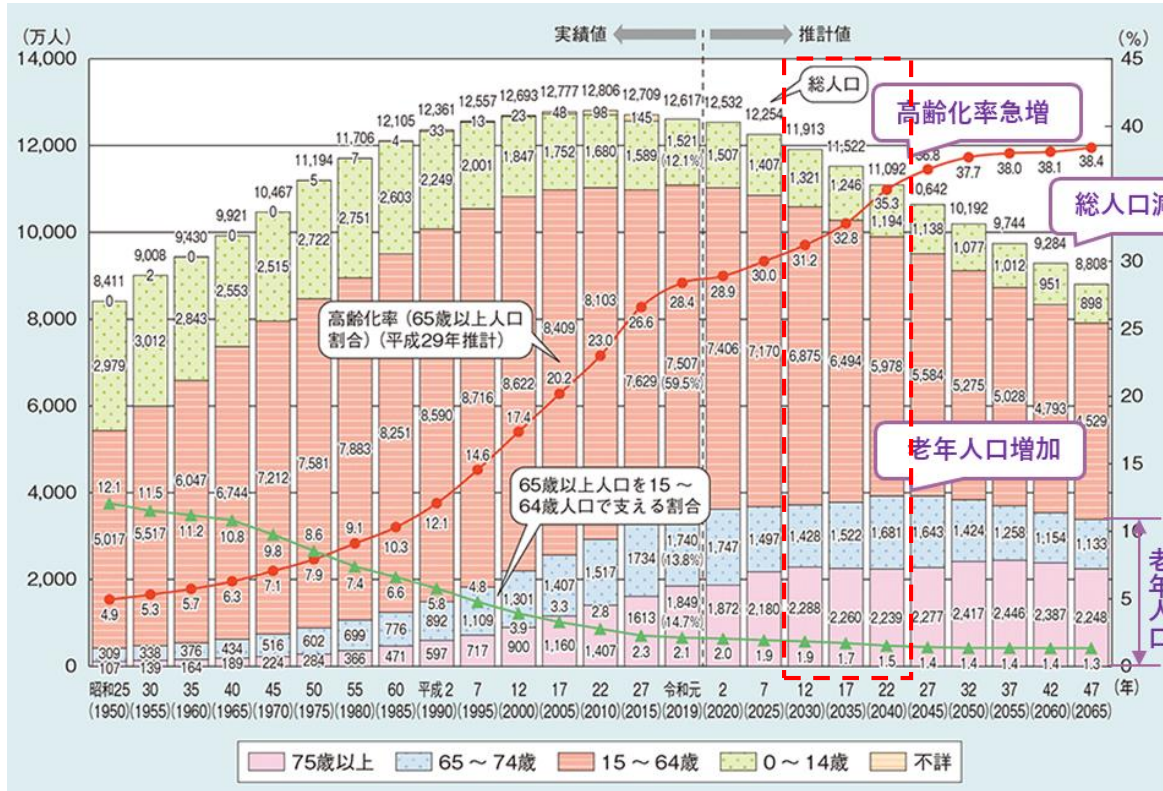
甲府市

1. リニア駅前の利用者属性（前回の補足）

- 全国、甲府市ともに、総人口は減少し、総人口における65歳以上の人口割合が増加する。
- リニア駅前の利用者属性を考える上でもこうした人口構成を念頭に置くとともに、人口減少・高齢社会の中で持続的に発展するまちづくりのモデル的な取組を発信していくことも必要である。

（日本の人口動態）

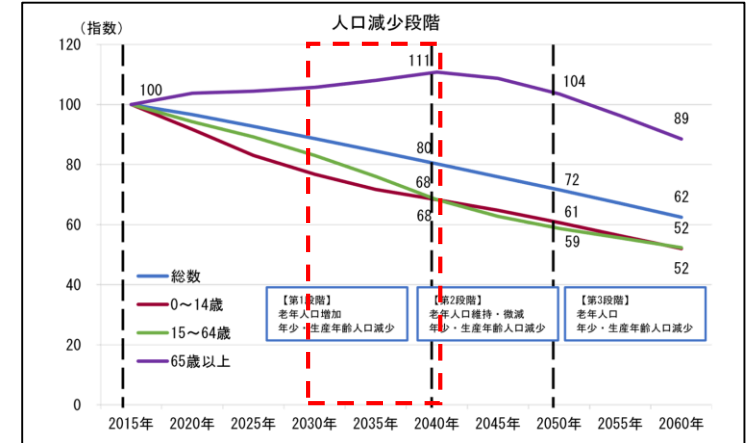
内閣府HPより一部加工



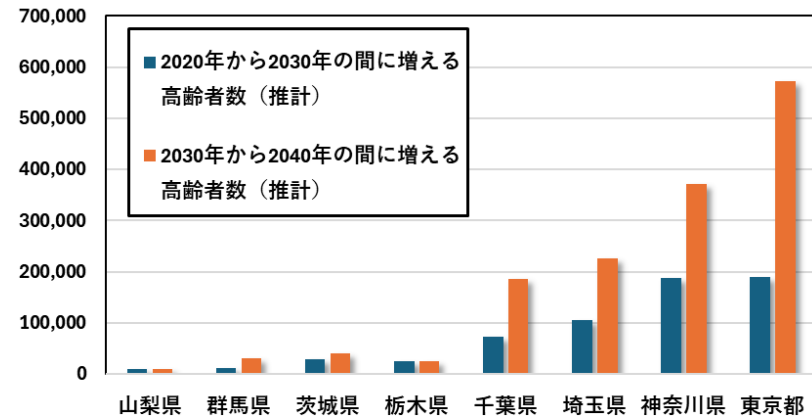
- 日本の人口は、令和35（2053）年には1億人を割って9,924万人、令和47（2065）年には8,808万人になる推計
- 老年人口（65歳以上）は、令和27（2045）年まで増加傾向が続く見込み
- 2070年には総人口が9,000万人を割り込み、高齢化率は39%の水準になる推計

（甲府市の人口動態）

甲府市人口ビジョン（2020）



（老年人口の増加）2020年は総務省「国勢調査」、2030、2040年は国研「日本の地域別将来推計人口（R5年推計）」より算出



- 2020年～2030年の高齢者数の増加よりも、2030年～2040年の高齢者の増加が顕著である。特に、東京都、神奈川県では2030年～2040年でもその増加傾向が著しい。

1. リニア駅前の利用者属性（前回の補足）

- 利用者属性等から考えると「効果的な駅前エリアの使われ方」を以下のように整理する。
- 本県・本市への来街頻度が低い方々が利用する場所だからこそ、一層分かりやすい設計である必要がある。

	状況・予測	リニア駅前で対応を検討すべき事項
現在の本市の利用者属性より	甲府駅を訪問する来街者のリピート率は低い（年1回が8割）	<ul style="list-style-type: none"> • リニア駅も来街頻度が少ない利用者が多いと想定されるため、特に公共施設設計はより一層わかりやすくなるよう心掛ける必要がある。 • 山梨や甲府の新たな玄関口として、県内各地への訪問に期待を抱かせるような都市デザイン等を調査研究する必要がある（新たな山梨のイメージ形成）。
地域特性	リニアは1時間に1本（上下2本）	<ul style="list-style-type: none"> • 待ち時間の発生を逆手にとって、消費が喚起される仕組みを考える必要がある。 • 特にこれまで国中エリアには少なかった外国人観光客の立ち寄り需要に対するサービス設計を調査研究する必要がある。
	中央道は約27,000台/日の交通量	<ul style="list-style-type: none"> • 高速休憩（立ち寄り）需要を満たせるように、規制緩和について調査研究する。
	リニアはモノではなく人を運ぶ	<ul style="list-style-type: none"> • 人を介して情報（知／ナレッジ）や“カネ（投資）”が運ばれるため、知とカネから生み出される「イノベーション」を創出しやすい土壌が生まれる。
	周辺は産業系土地利用	<ul style="list-style-type: none"> • 山梨のものづくり産業とのコラボレーションを誘発する仕掛けを調査研究する。
	首都圏の災害時には救援拠点になり得る可能性	<ul style="list-style-type: none"> • まち全体が日常時も災害時も機能する「フェーズフリー」の設計が必要
	歴史ある集落もあり、生活利便機能の向上が求められている	<ul style="list-style-type: none"> • 単一用途ではなく、複合用途（Mixed Use）のまちの可能性を調査研究する。（日常時のフェーズも撤去して、24時間利用されるまちの可能性）
リニア時代の行動特性	オンライン（デジタル空間）で可能な働き方が広がる	<ul style="list-style-type: none"> • この時代だからこそ貴重な「リアルな交流」が交通結節点だからこそ実現可能 • リアルな交流による刺激や知識創造を促す機能の在り方を調査研究する。
リニア時代の社会特性	人口減少社会、超高齢化社会	<ul style="list-style-type: none"> • 高齢者の増加や健康寿命の延伸に伴い、リニア利用者に占める高齢者割合が高まる可能性がある。

2. 上位・関連計画に示されるリニア駅前に望まれる機能

- リニア駅前のまちづくりにおいては、“触媒的な働き”を担うまちを目指すこととしている。
- 周辺の地域において、産業、観光、生活の面から充実した資源を有するため、それら方向性との整合を要す。

甲府(市・圏域)の強み

立地	世界文化遺産富士山近郊、東京圏・中京圏の中間、大都市より安価な地価、 <u>鉄道・高速道路の結節点</u>
産業	<u>ビジネスがしやすい環境</u> （平坦な用地、リニア駅が県都に位置）、
地域資源	<u>水素・燃料電池関連技術</u> の蓄積、日本トップレベルの <u>健康寿命</u> 、生産量全国1位の <u>果物、地場産業</u> （宝飾品等）の蓄積、 <u>大手メーカーを支える技術力</u> を持つ中小企業、 <u>都市型サービス業</u> （金融、保険、医療、教育）の発達、 <u>小売店、飲食店等の集積</u> 、 <u>自然環境</u> （良質な水資源、長い日照時間）
防災	<u>災害が少ない</u>
人材	国内唯一の <u>宝飾人材育成機関</u> 、 <u>ワイン専門の教育人材</u> 輩出、 <u>燃料電池実用化の開発リード</u> 、 <u>外国人留学生</u>

甲府のリニア駅前に望まれる機能

- ◆県・市都市計画マスタープラン：広域交流拠点
- ◆新たなゲートウェイとしての交通結節機能
- ◆新たな産業の創出と関連産業の集積や研究開発機能
- ◆市・圏域の観光振興機能
- ◆新しいライフスタイル（暮らす・働く）の創造・発信機能
- ◆平常時も災害時も活躍する広域防災機能

リニアやまなしビジョン（2020.3）

（仮称）リニア山梨県駅前エリアのまちづくり基本方針（2023.11）

圏域内の他のまち

やまなし県央連携中枢都市圏の範囲

（韮崎市、南アルプス氏、甲斐氏、笛吹市、北杜市、山梨市、甲州市、昭和町及び甲府市）

機能向上を図る分野

スーパー・メガリージョン構想検討会（2019）

（産業）

甲府市産業ビジョン（2019.3）

- ものづくり産業や地場産業を牽引する研究開発拠点や情報発信・交流拠点の形成
- 燃料電池関連企業の一層の集積
- 大規模展示場・会議場や AI、IoT など第四次産業革命関連企業の誘致
- 新たなビジネスチャンスを創出するスタートアップ企業の起業支援
- 医療機器産業の集積

（観光）

甲府市観光振興基本計画（2021.3）

- 東海・関西地方などを視野に新たな地域やターゲットに対する誘客
- 世界文化遺産の富士山等の豊かな自然や果樹農業、ワイナリー等を利用した多様なツーリズムのさらなる推進
- 高度な交通ネットワークを活かした地域戦略の推進

（生活）

甲府市都市計画マスタープラン（2019.3）

- 国内外の広域交流の促進による産業や観光の振興、緑が多くゆとりある居住の確保を図る
- 恵まれた自然環境と大都市の利便性を享受する豊かで潤いのある生活や多様な働き方の実現等、新たなライフスタイルを展開

圏域内の他のまちの機能もともに向上させるまち
（“触媒的な働き”を担うまち）

3. 民間事業者への非公開サウンディング調査（R6.2月）の結果概要

- 昨年度より、ディベロッパー等の民間事業者に対して、非公開サウンディングを実施している。
- 先月のヒアリングでは、主にまちの機能に関する意見交換を実施し、以下のような意見を頂いた。

まちづくりの検討の際に 考慮した方がよい視点	<ul style="list-style-type: none">• 土地利用の検討に向けては、市から全体コンセプトとなる考え方を提示してほしい。• リニア駅前は、時間的価値（速達性）を重視する人が価値を見出す場所となる。• 県域、市域に経済効果が波及する土地利用を考えるのがよい。• ターゲットの設定においては、尖らせること（絞ること）、甲府駅との差別化を考えることが重要。• リニア駅前が目的地となる土地利用・機能導入も想定される。
公共施設の機能や配置の 考え方	【交通広場】 <ul style="list-style-type: none">• 南北での機能分担を考えたほうがよい（南側は街の顔として人々を受け入れる空間になりうる等）。• 交通のハブ機能としての役割を担うだろう。• 駅北側～駅舎～駅南側がフラットに使える空間があるとよい（デッキ等）。
土地利用や誘導する都市 機能の考え方	【産業・業務】 <ul style="list-style-type: none">• 企業誘致においては魅力的な立地である（リニア・ICの開通が契機、企業のバックアップ機能）。• 県内企業の移転は考えにくいものの、まずは周辺企業のニーズ把握し、需要に応える機能誘導から連携できるのではないか。
	【観光・滞在】 <ul style="list-style-type: none">• 甲府らしさ、山梨らしさを追求し、どのような観光資源を活用していくかを考えるべき。• 周辺観光地（富士山方面、八ヶ岳方面）の玄関口としての役割を担うだろう。• ターゲットの設定においてはもっと尖った方がよい。（昨今では、インバウンドといってもより精緻なターゲティングを必要とする。）
	【物流】 <ul style="list-style-type: none">• 自動運転に対応した大規模物流ステーションが立地する可能性は低い。• 甲府盆地エリアへの配送拠点となる可能性はあるだろう。
	【居住・商業】 <ul style="list-style-type: none">• 居住をメインとした土地利用にするには、教育や保育環境等の周辺環境が乏しい。• 時間的価値を重視する人が住むと考えれば、駅直近がマンションといった配置も考えられる。• まずはコアとなる施設を検討し、コア施設と連動し付加価値を高める機能（商業や住居）導入が必要。

4. まちの機能の想定について

• まちの機能を誘導に向けた土地利用の考え方を検討

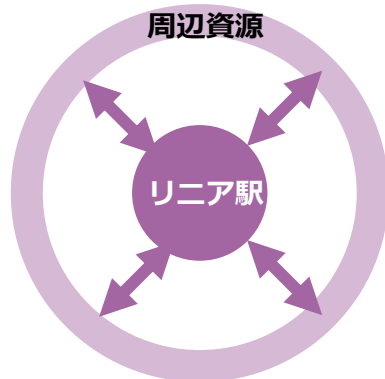
(土地利用を考える視点)



- 速達性を活かした複合用途
- ターゲットに訴求できるように“尖らせる”

(上位・関連計画への寄与)

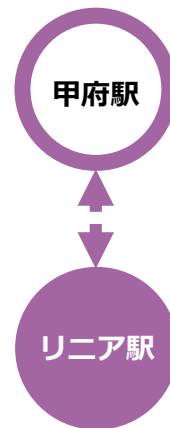
- 産業振興、観光振興
- 多様なライフスタイル展開
- 新たなターゲット



- 既存資源と連携・補完可能な機能を誘導
- 新たな企業進出の誘発

(上位・関連計画寄与)

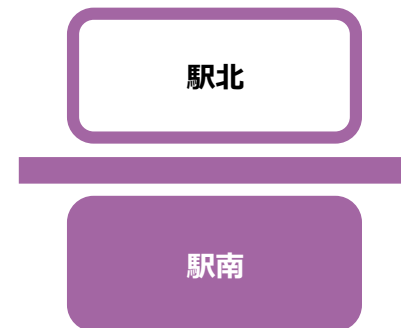
- ものづくり産業や地場産業の牽引、医療機器産業集積
- スタートアップ企業の起業



- 甲府駅との連携・補完
- ターゲットの差別化に留意する

(上位・関連計画寄与)

- 市や圏域をけん引する二拠点形成
- 都市型サービス業の発達



- 南北の連携・補完
- 南側での人々の過ごし方を想定した駅前の機能配置

(上位・関連計画寄与)

- 交通ネットワークを活かした地域戦略
- 広域防災機能

土地利用の考え方 (案)

“イノベーター”に響く、産業・観光・生活の場が融合した、新たな価値を生み出す拠点

- イノベーター：積極的に新たな分野に挑戦（チャレンジ）をして、新たなモノ・コトを起こす（イノベーションを起こす）人
- 速達性を活かし、特定のターゲットに訴求する、駅周辺の産業資源・観光資源と連動した機能を複合用途を誘導する
- 産業資源、観光資源の集積を補完する生活機能の誘導する